特集 SPECIAL

Now of the aged club

老人クラブは今

―改革始動！地域と福祉を支える力に―

「老人クラブに入りたくない」と考えている60代が増加し、全国各地で「老人クラブ離れ」が進んでいます。これまで老人クラブは、高齢者の元気づくりをはじめ、地域の環境美化や伝統文化の継承など、地域社会を支える大切な役割を果たして来ました。高齢化社会が進む中、このまま老人クラブが衰退していくとどうなるのでしょうか。9月15日の「老人の日」を前に、老人クラブが抱える課題と今後のあり方を追いました。

過渡期を迎えた老人クラブ

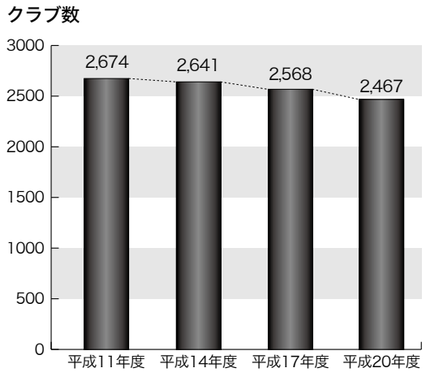
加入率が年々低下

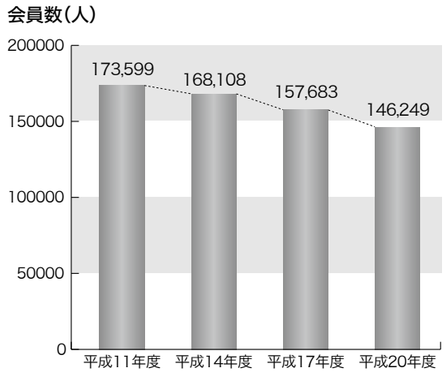
広島県老人クラブ連合会（県老連）の調べでは、高齢者人口が増加しているにもかかわらず、県内の会員数は平成9年の17万5120人をピークに、この10年間で207クラブ、会員数で2万7350人が減少しています。老人クラブの加入率（60歳以上人口に対する加入者の割合）も、昭和63年度には45・3％を占めていましたが、平成20年度では、26・3％となっています。

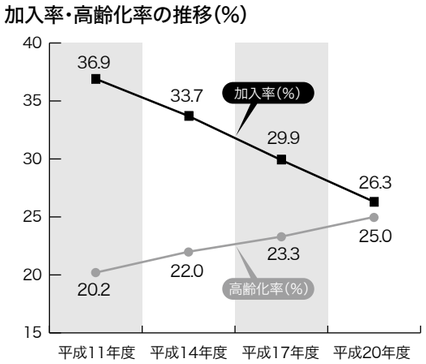
特に60代の未加入者が多い傾向にあり、加入者の多くは70歳から80歳が中心で、加入率の低下や老人クラブ自体の高齢化が懸念されています。

本市では、平成20年度の加入率が45・5％と県内では高い組織率を誇っていますが、年々、会員数・加入率ともに減少傾向にあります。ただ、加入率に地域差があるのも事実。口和や高野地域では90％以上の加入率がある一方、庄原地域では単位老人クラブ（単老）がない地域もあり、約30％の加入率にとどまっています。

広島県老人クラブ連合会の会員数等の推移（資料：県老連調べ）







庄原市老人クラブ連合会の会員数等の推移（資料：県老連）

年　度	クラブ数	会員数（人）	総人口（人）	60歳以上人口（人）	65歳以上人口（人）	加入率（%）	高齢化率（%）
平成11年度	163	9,674	47,158	18,670	15,065	51.8	31.9
平成14年度	158	9,142	45,733	18,666	15,652	49.0	34.2
平成17年度	141	8,696	44,151	18,519	15,722	47.0	35.6
平成20年度	140	8,413	42,165	18,498	15,573	45.5	36.9

※ 加入率：老人クラブ会員数／60歳以上の人口

老人クラブを敬遠する理由

会員数の減少が続く理由は、新規入会者が増えないこと。個人の意思を尊重する傾向や趣味・価値観が多様化する中で、「人間関係がわずらわしい」「老人とは呼ばれたくない」「他の団体・サークル活動で十分」などと考える高齢者が増えているという背景があります。また、長寿化で会員の年齢層の幅が広がり、画一的なクラブ活動では、高齢者全体のニーズに対応できていないという指摘もあります。

加入率の高い高野地区老人クラブ連合会の森木萬利会長も「今の60代は若く、本人も老人という意識は低い。これまでは、地域の申し合わせで65歳になれば、ほぼ強制的に老人クラブに加入してもらっていたが、若い人の価値観も多様化してくると今後は分からない」と危機感を募らせています。

一方で、役員の後継不足から、会長の退任に伴う老人クラブの解散も増えています。市老連の遠藤泰允副会長は「高齢者は文書を書いたり、補助金申請や実績に伴う書類を作成したりすることが苦手。そのため、誰もが交代で役員を務めることができず、事務のできる人が長年役員をすることも多い。老人クラブを解散して、自治振興区の組織として活動するところもある」と問題点を指摘します。

県老連の高橋辰夫会長は「歴史と伝統ある老人クラブが、逆にこれまでと同じ活動を続けていればよいというマンネリ化を生み、60代にとって魅力が感じられなくなっている。今後は〝老人クラブに入りたい〟と思わせる魅力ある活動テーマを見出すとともに、高齢者の健康づくり、友愛活動、地域社会への貢献といった老人クラブ本来の目的を普及啓発していかなければいけない」と強調します。

研修旅行

手芸クラブ作品展

神社の清掃活動

若手委員会を設置

県老連は、会員の増強とクラブの解散防止の対策として、「若手委員会・女性若手委員会」を設置することにしました。若手会員や女性の意見が反映されるクラブ運営を目指すのが狙い。単老ごとに若手委員を2人選出し、各地区老連で若手部を設置。市老連では、若手部の代表者が集まり、若手委員会を設置しています。

若手委員会では、リーダー育成研修のほか、情報交換や意見交換をしながら、今後の活動のあり方を話し合っています。また、「高年、若手、女性のバランスのとれた役員構成にしよう」と呼びかけ、若手会員を役員に登用し運営に参画することで、健康づくり事業など若い人に魅力ある活動を提案しています。

市老連女性リーダー研修会

市老連の組織

（平成21年7月1日）

市老人クラブ連合会
（市老連）
||
地区老人クラブ連合会
（地区老連14／庄原地域8、各支所区域6）
||
単位老人クラブ
（単老135／庄原6、高2、本村2、峰田7、敷信9、東5、山内7、北11、西城22、東城27、口和9、高野13、比和10、総領5）

市の助成

（平成21年度）

①市老連・地区老連・単老助成	944万円
②活性化事業助成	300万円
助成合計	1244万円

（県／275万円、市／969万円）

老人クラブを知る

老人クラブとは？

老人クラブは、おおむね60歳以上の方々で構成される、地域の自主的な高齢者活動グループです。会員が日常的に声を掛け合い、歩いて集まることのできる小地域の範囲で単老を組織しています。地域の高齢者が、生きがいと健康づくりのために、老人クラブの仲間づくりを基礎に相互に支え合い、楽しいクラブづくり、社会へ貢献するクラブづくりに励んでいます。

平成20年3月末で、全国に単老は12万2153クラブ、会員数は762万3972人です。

また、老人クラブは、昭和38年に制定された老人福祉法や平成6年の新ゴールドプラン（高齢者保健福祉推進10カ年戦略の見直し）などに、高齢者の社会参加・生きがい対策の推進組織として位置づけられています。

※本市では、対象者を65歳以上に規定されている老人クラブが多い。

活動事例

【生活を豊かにする楽しい活動】

- **教養講座の開催**
（健康教室、転倒予防教室、交通安全教室、人権学習会、防火・防犯教室、料理教室、しめ縄教室、手芸教室、生け花教室、食育講座など）
- **スポーツ振興活動**
（グラウンドゴルフ、ゲートボール、ウォーキング大会など）

【地域を豊かにする社会活動】

- **友愛訪問活動**
（一人暮らし高齢者・施設訪問など）
- **清掃奉仕**
（道路清掃、集会所清掃、神社清掃、花壇管理、公園清掃など）
- **伝承活動、世代交流**
（わら細工作り、子どもとの交流など）

わら細工作りで中学生と交流

Interview

【インタビュー】

老人クラブは高齢化社会の担い手

高齢者福祉課
前原（まえはら）　伸一（しんいち）　課長

高齢者が高齢者を支える時代

高齢化が進む本市において、老人クラブの衰退を非常に心配しています。

本市の高齢者の現状を見ると、65歳以上の高齢者人口は本年3月末で1万5458人、高齢化率は37・3％です。それが、平成26年には40・1％になると推計され、2・5人に1人は65歳以上という超高齢化社会を迎えることになります。これは、全国平均に比べ45年早いとされています。

また、一人暮らし高齢者が増え、75歳以上の一人暮らし世帯は1914世帯、うち一人暮らし高齢者等巡回相談員による見守り対象者は1457人となっており、今後、核家族化や親族間の扶養意識が低下してくれば、ますます増えてくると思われます。

このような状況から、年齢に関係なく、健康寿命をしっかり延ばして、元気なうちは、支えられる高齢者から、地域と福祉を支える高齢者になっていただく必要があります。そのためには、老人クラブの活性化が不可欠で、存在意義は今後ますます大きくなると思います。

老人クラブの活性化を支援

誰もがいつかは迎える高齢期を心身共に健康で、安心して、その人らしく生きていくためには、自助・共助・公助の3つのバランスが大切です。「自助」とは自分でできることは自分で、「共助」は個人でできないことは地域で、「公助」は個人でも地域でもできないことは行政が確実に対応するということです。特に老人クラブや自治振興区活動などの共助がしっかり機能することが大切。地域の福祉力を高めることが、みんなの幸せづくりにつながっていくと考えています。

本年度、市は庄原市老人クラブ活性化事業を創設し、老人クラブが行う①若手会員の加入促進および育成による活性化、②会員への介護予防事業の推進、③一人暮らし高齢者等の見守り支援の実施に対して、300万円を助成することにしました。これは、高齢者福祉の向上に貢献したいと市老連から要請があったもので、大変心強く感じています。今後、一人暮らし高齢者等巡回相談員や民生委員児童委員の義務的な見守りに加え、老人クラブや自治振興区など地域のさりげない気に掛け合いが充実すれば、高齢者の皆さんの安心感もずいぶんと高まると思います。

全国では、老人クラブへの加入率が高いほど、高齢者医療・介護費が低いという調査結果があるなど、老人クラブの活動自体が介護予防にもつながっています。自分のため、他人のため、地域のため、老人クラブへ加入し、「支え・支えられ・安心して暮らせる共生社会」をみんなで築きましょう。

介護予防教室

若手委員の声　Voice of young committee

会員増には声かけや意識付けが大事

廣澤（ひろざわ）　靖郎（やすろう）さん
東本町：「紅屋結の会」

私は2年前、「役員をする人がいなくて、老人クラブが解散の危機を迎えている。老人クラブに入って役員をしてほしい」と頼まれ加入しました。それまでは、老人クラブ＝ゲートボールというイメージで全く関心がなく、声もかからなかったため、自ら老人クラブへ入ろうとは正直思いませんでした。しかし加入後、高橋辰夫会長の考え方を聞いたり、若手委員として県老連の研修会に参加したりして、「老人クラブが地域を支えなければいけない」ということを強く感じました。

若い人の意見を取り入れながら新しい老人クラブを創っていこうという思いで、老人クラブを「紅屋青葉長寿クラブ」から「紅屋結の会」に名称変更しました。私は75歳になりますが、自分のことを老人だとは思っていません。いつまでも考え方を若く保ち、若い人にも受け入れられる老人クラブを目指しています。

19人だった会員が、声かけをして現在38人にまで増えました。会員を増やすためには、やはり声かけが一番。そして、「65歳になったら老人クラブへ入って、自分たちの地域を支えていこう。みんなで楽しいクラブ、地域を創っていこう」という意識付けが大事だと思います。若い人は「自分さえ良ければいい」という考え方をお持ちの方もおられますが、少しずつ地域に目を向けていってほしいと思います。

若い人の活躍が期待されています

中原（なかはら）　幹枝（みきえ）さん
新庄町：「延命クラブ」

60歳で退職したものの、まだまだ「現役の働き盛り」という意識があったので、60歳で老人クラブへ入るときは私も少し抵抗を感じました。しかし、「60歳になれば老人会に入る」という地域の決まりごとがあり、同世代みんなで加入するので気持ちは楽でした。

老人クラブでは、若手会員が中心となって健康づくり活動をしています。現在、廣澤さんと一緒に体力測定やいきいき体操を普及しながら、「寝たきりにならないように、体を動かしましょう」「みんなで集まって楽しいおしゃべりをしましょう」と呼びかけています。また、県内では若手会員が率先してゲートボールやグラウンドゴルフをやって、地域の健康づくりを引っ張っている事例もあり、若い人の活躍が期待されています。

私は定期的に一人暮らし高齢者の配食サービスをお手伝いしていますが、高齢者が一人で苦しんでおられる姿に遭遇したこともあり、「夜になっても電気がついていないけど大丈夫？」など、地域のちょっとした心配りや声かけが大事だと感じています。本年度、市老連では安心見守りマップづくりに取り組んでいますが、地域の安全・安心づくりでも若い人の力が必要です。

会員の年齢幅が広いことから、時には世代間で考え方が異なると思いますが、お互いに理解し合い、豊富な人生経験から培った知恵や特技を結集すれば、もっと魅力的なクラブ、そして地域になると思います。

Interview

地域と福祉を支える老人クラブへ

【インタビュー】

広島県老人クラブ連合会
高橋（たかはし）　辰夫（たつお） 会長

たかはしたつお。昭和３年生まれ。市場長寿会。平成17年４月から市老連会長。平成19年４月から県老連会長。

若手会員を増やし、地域貢献を

高齢化が進む中、地域で安心して生活を続けていくためには、高齢者同士が助け合い、支え合い、高齢者自身もこれまでの経験を活かして社会に参加していくことが求められています。特に高齢化率の高い本市においては、高齢者が本気で地域づくりの主役になって活動しないとどうにもならない状況になっています。

これまでの老人クラブは仲良しクラブ、親睦クラブで良かった時代です。昭和38年に老人福祉法が施行され、老人クラブに対する補助制度が始まりました。当時、60歳以上の割合はわずか９％。老人クラブは大事にされ、助けられながら、楽しく活動ができました。しかし、これだけ高齢者が増えてくると、支えられるだけでなく、元気なうちは自分たちでできることは自分たちでしよう、自分たちの仲間のことは自分たちで助け合っていこう、老人クラブはこういう組織に変わらなければいけません。

県老連では、「地域と福祉を支えるのは老人クラブである」との自覚と自負を持ち、老人クラブの活性化を図るという報告書をまとめ、平成20年度を「改革元年」として位置付け、第1歩を踏み出したところです。

老人クラブ活動を活性化させるためには、会員が増える仕組み、入会して一緒に活動したいと思われるようなクラブになる必要があります。現在、若い人の考え方や意見を今後の方針や企画に反映させるため、若手会員の組織づくりを行っています。会員が楽しみながら健康づくりをはじめ時代の要請にあった活動を行い、若手会員の増強を目指したいと考えています。また、若手会員が役員と一緒になって、老人クラブの先頭に立ち、「地域を豊かにする活動」「地域貢献活動」に、これまで以上に舵を切っていきたいと思います。

市老連の理事会

組織率を上げ、頼られる存在に

本市の高齢者福祉対策は、行政と社会福祉協議会、老人クラブ連合会、そして自治振興区の４者が連携を密にし、同じ方向を向いてそれぞれの役割を果たし、協働することが大切だと考えています。また、各自治振興区に高齢者福祉部を設け、高齢者福祉部＝老人クラブというように、自治振興区と一体となって活動することで、効果的・効率的な地域貢献活動ができると思っています。

そのためには、老人クラブの組織率を高め、「高齢者福祉対策は、老人クラブに任せなさい」と言えるぐらい力をつける必要があります。庄原地域には、老人クラブがない自治会も多く、現在、各自治振興区を回り、自治会単位に老人クラブを作っていただくようお願いをしています。本年度中には、庄原地域の加入率を30％から50％に引き上げ、高齢者の代表として頼られる存在になりたいと思っています。

今後さらに、地域の信頼を集め、体力と気力にあふれた60代の方々に存在感をアピールして、老人クラブに目を向けてもらう、関心を持ってもらう努力を続けていきたいと考えています。60代の中には、「老人」という名前に抵抗があると思いますが、地域づくりを担う組織ということを理解していただき、共に住み良い地域づくりに協力してください。

若手会員を中心に体力測定。健康づくりを呼びかける

老人クラブ活動の目的

①老人クラブは、高齢者が生きがいと健康づくり、レクリエーションなどに取り組み「自らの生活を豊かにする楽しい活動」や、高齢化社会の主人公として、高齢者の持っている経験や知恵を生かして「地域を豊かにする社会活動」に取り組み、会員の自信や誇りを高めます。

②老人クラブは、地域ぐるみの福祉活動の一翼を担うものとして、各種の住民組織やボランティア、福祉機関・団体と共同した実践を行い、福祉社会形成の担い手となります。

従来からの活動内容

- ●ゲートボール、グラウンドゴルフ、スポーツ大会
- ●サークル活動、教養講座
- ●友愛訪問活動
- ●子どもとの交流
- ●清掃奉仕、花づくり
- ●敬老大会、芸能大会

今後展開する活動分野

- ●**健康づくり・介護予防活動**
  （介護予防、認知症予防、高齢者の閉じこもり防止、自殺予防、医療費・介護費用削減）
- ●**友愛・在宅福祉援助活動**
  （地域ケア体制を支える在宅福祉活動）
- ●**安全・安心のまちづくり活動**
  （災害時の救援体制の整備、地域の犯罪防止、交通安全）
- ●**子どもの見守り、ファミリーサポート、次世代育成活動**
  （子どもの安心・安全の確保、地域文化の伝承）
- ●**生産活動、リサイクル**
  （生産活動の組織的取り組み、地域活性化）

参考資料：若手委員会・女性若手委員会活動の手引き（県老連）